Waseda Vision 150 芸術学校の将来構想の進捗状況報告

１．2018 年度報告

（１）入試関連（Waseda Vision 150 核心戦略１関連）
－2020 年度を見据えた各学部･研究科における入試制度改革の実施状況等－

〇広報・学生募集活動推進

2018 年度は新カリキュラムスタートの年であり、このコンセプト（ASSEMBLE（アセンブル）＝多様な領域を集合し組み立てること）の魅力に力点を置いた学校説明会（全８回）を精力的に西早稲田キャンパスで実施した。また、本学学部生等を対象とした入学者掘り起こしのため、今年度で３年目を迎えた所沢キャンパスでの学校説明会に加え、早稲田キャンパスでのポスター掲示、戸山キャンパスにおける学校説明会案内配布等の広報活動を新たに実施した。

Web 媒体による新たな展開としては、外部求人サイト利用を拡張するとともに Instagram（インスタグラム）による広報活動を新たに開始し、従来から利用している Facebook や twitter とも連動させながら本校の活動情報の配信をより積極的かつタイムリーに推進した。

〇学内外における連携体制構築

入学希望者本人への広報活動のみならず、入学希望者周辺の建築・建築デザイン関係者を主なターゲットとした建築デザイン関連団体の会報や早稲田学報への広告掲載等により、中長期的な観点から学内外に対する芸術学校の知名度とプレゼンス向上を図ることに努めた。

（２）教育関連（Waseda Vision 150 核心戦略２、３、４関連）
－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院･学院･学校における取り組み状況等－

〇新カリキュラムの安定的運用の実現

芸術学校は 2018 年度新カリキュラムをスタートし、この新たなカリキュラムの円滑な始動と安定的運用を実践することが出来た。また、新カリキュラム導入に伴う教育内容や教育方法の変化により以下のような教育効果が認められた。

①「空間設計計画」および「景観設計計画」という新科目の開講により、学生の新たなニーズの存在が改めて明らかになるとともに、学生の学修へのモチベーションの一層の向上をもたらした。

②新科目「アセンブルデザイン特論」において、建築デザインを取り巻く領域（都市マネジメントからエディトリアルまで）で活躍する著名な実務家や研究者を講師として招くことができ、学生の多様な興味に応えた授業を実践するとともに、学生の進路選択の拡張にも寄与した。

③２科目の授業をクォーター化したことにより、演習と講義を組み合わせたより効果的な授業の展開が実現できた。

（５）その他

－（１）～（４）に該当しない、学術院独自の戦略・プロジェクト等－

〇今後の中長期計画検討

2018 年度の新カリキュラム導入により、デザインオリエンテッドな教育への移行と高度建築家養成教育の基盤が整備された中で、現状の課題把握のための議論や意見交換を開始し、次のビジョン策定に向けた準備に着手した。

〇高度建築家養成に向けた大学院進学支援プログラムの試行

芸術学校からの大学院進学者を支援するため、新学期開始時に進学希望者の面談を実施、個々の能力に応じたきめ細かな指導を実践した。

２．2019 年度計画

（１）入試関連（Waseda Vision 150 核心戦略１関連）
－2020 年度を見据えた各学部･研究科における入試制度改革の実施計画－

〇広報・学生募集活動推進

新カリキュラムの内容を中核とした広報活動を推進する。昨年に引き続き、西早稲田キャンパスでの学校説明会を精力的に実施する一方、新たな入学希望者の掘り起こしのため、Web 媒体や SNS の活用の強化とともに、本学各キャンパスでの説明会活動の展開、優秀な新高卒生確保に向けた諸活動（有力高等学校への学校訪問等）を検討する。

〇入試制度の見直し検討

他大学および専門学校の入試多様化に伴い、進学希望者各層の進路決定時期に合わせた学生募集活動の検討を開始する。

〇建築文化への貢献を通じたブランド力強化への諸活動

建築関連団体等との連携体制構築、建築講演会や学外展示等と文化活動等により、芸術学校のブランド力強化を推進する。

（２）教育関連（Waseda Vision 150 核心戦略２、３、４関連）
－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院･学院･学校における取り組み計画－

〇新カリキュラム「ASSEMBLE」の着実な運用

2018 年度の新カリキュラム運用状況の検証を踏まえ、教育内容と方法に改良を加えつつ 2019 年度もこの着実な運用を図る。

〇新カリキュラムの新たな展開―芸術・技術・理論の融合

新たな展開のキーワードに「テクノロジーデザインストラテージ＝芸術・技術・理論の融合」を掲げ、AA デザインマトリックスの９つの教育テーマそれぞれに付帯する技術テーマを連動させ、カリキュラムの深耕を図る。

また、２年次と３年次にわたる授業内容の連続性の強化を図るとともに、さらに強化すべき分野（保存再生等）において著名な実務家や研究者を採用し、さらに魅力ある授業を展開する。

（５）その他
－（１）～（４）に該当しない、学術院独自の戦略･プロジェクト等－

〇中長期計画の立案検討

早稲田大学のリカレント教育の中核の一つとしての芸術学校が、次の時代を見据え、更なる成長をすることを目的とし、2018 年度の現状把握と議論をさらに掘り下げ、それらをもとに中長期計画の骨格を立案する。なお、この骨格を検討する上で、現段階で軸と考える事項は次のとおりである。

①建築文化に興味や憧れを抱く幅広い人材を発掘する方法と多彩な人材教育を効果的に行う方法の検討。

②「総合芸術としての建築」を芸術・技術・理論を統合したより高度なレベルのカリキュラムへ昇華するための検討。

③国際化・グローバル化への施策検討

〇教育内容の拡充のための創造理工学部建築学科・同研究科建築学専攻との連携強化

高度建築家養成に向けた大学院進学希望者支援プログラムの確立や特別聴講制度の活用による学生の授業選択の拡張と学部生との交流を促進する。

以　上